

第二海堡に現存する資源

SINCE1889

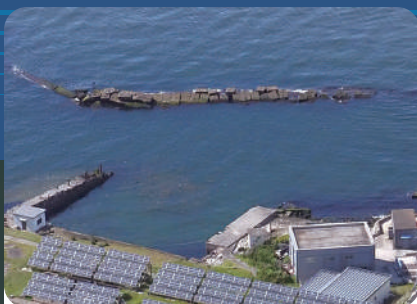
残存する要塞 第二海堡の遺構

第二海堡は、当時の面影を今に伝える遺構や開放的な景観など、貴重な資源を有しています。ただし、場所によって立ち入りできないところがあります。



えんべいごう
右翼北側の掩蔽壕の内部です。アーチ形の入口は地下通路で27cm加農砲に繋が^{れんが}り、天井はコンクリート、横壁は煉瓦構造物となっています。

煉瓦構造物
(右翼北側掩蔽壕)



北側海域の防波堤です。東側は延長160m、西側は延長80mですが、西側部分は沈下が進み海没状態です。

防波堤



北側の繋船場です。係船柱が残し、石垣の勾配も急なことから当時の繋船場であると考えられています。

繋船場



えんべいごう
右翼北側の掩蔽壕の外観です。イギリス積み^{れんが}の擁壁が114m続き、煉瓦は高温で焼いた耐水効果の高いものが使われています。

煉瓦構造物
(右翼北側掩蔽壕)



北側の着船場に隣接する倉庫です。壁は煉瓦^{れんが}、天井はコンクリート。繋船場に近い場所に位置し、防水施工もされており、燃料を保管した倉庫であると考えられています。

北側着船場前倉庫



煉瓦構造物
(右翼西端掩蔽壕)



日清戦争時、海軍が右翼に水雷衛所や海軍砲を設置しましたが、日清戦争終結後これらは撤去されました。その後第二海堡の基礎工事は続行され、この西端に15cm加農砲が配備されました。
^{れんが}
第二海堡からは桜花章煉瓦の他にいくつかの刻印が収集されています。



煉瓦刻印

砲台跡・灯台



かのんほう
15cm加農砲の砲台跡で、無筋コンクリートの巻き立てが行われています。現在、この場所に第二海堡灯台(高さ12m)が設置されています。

間知石



けんちいし
間知石が積まれた南側の護岸です。伝統的な築城技術によるもので、関東大震災でも崩壊しなかった堅固な構造となっています。

第二海堡付近を行き交う船



第二海堡は浦賀水道航路および中ノ瀬航路に近接しており、大型のコンテナ船やタンカー、豪華客船などを間近に見ることができます。



12.7cm高角砲の砲座跡です。この高角砲は太平洋戦争時、昭和19年(1944)に設置されたものだと考えられています。

高角砲の砲座



この観測台は視界の開けた場所に設けられており、地下の指令室や通信室と一体的に機能していたと考えられています。

中央部砲塔観測台

煉瓦構造物
(中央部砲塔地下部)



左翼側の地下要塞の入口です。

